OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	TA (Teaching Assistant) の声　サイバーメディアフォーラム no.15　情報教育システム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2014, 15, p. 37-37
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70374
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

TA(Teaching Assistant)の声

情報活用基礎を担当して

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

斉藤 光平
（人間科学研究科　行動統計科学専攻）

私は、2014 年度前期、人間科学部の情報活用基礎の TA を担当しました。

講義の中では、基礎的な情報リテラシー・HTML・MS-Office・PEN 言語を用いたプログラミングなどを主に取り扱いました。

また、講義内容に関して、学生の習熟レベルは様々であったため、特に、手がなかなか進まない学生に対して、積極的にサポートしていきました。

とはいえ、最初から答えを出しても勉強にはならないので、どうしてもわからない、わかっていなさそうな学生には、できるだけ明瞭な操作方法や、「正解に近づく」考え方を提示するように心がけました。

本講義で学んだことは、どれも基礎的でありながらも、今後、様々な場面に活きてくることと思われます。

「何をすべきか」はその都度調べる、考えるぐらいでもよいかもしれませんが、最低限、学生さんには、「何をしてはいけないか」ということだけは、しっかり覚えておいてほしいと考えています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

島井　良重
（医学系研究科　医学専攻）

私が担当させていただきました情報活用基礎の TA では、MS-office、HTML によるホームページ作成、プログラミングなどの実習の補助を行いました。授業中は、学生に積極的に声をかけ、わからないところがあれば遠慮なく聞いてくれるような雰囲気づくりを徹底して行いました。また、複数の学生が同じ質問をする場合は、教員に報告し、全体に説明してもらうように対応しました。学生への対応だけでなく、他の TA にも積極的に声をかけ、学生への対応に困っているときも、お互い助け合い、助言や対応を行うなど TA 同士の連携も図ることができました。

この TA の経験を通して、良い授業を行うための工夫や教員、学生、他の TA とのコミュニケーションなどがとても重要であると感じることができました。私は、将来、教育職に就きたいと思っているため、教える立場をイメージすることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

西村 友洋
（情報科学研究科　情報ネットワーク学専攻）

私は 2014 年度前期に、文学部 1 回生の情報活用基礎において、ホームページ作成・Excel の利用・簡単なプログラミング演習など、情報知識を広く学ぶという内容の TA に携わりました。これらは、大学生活や社会において、今後役に立つ可能性が高く、有益な講義だと感じ、また受講生側も積極的に質問し、講義の雰囲気も良かったと思います。

その分 TA には、広い学習範囲に適切に対応することが求められ、そのために予習が必要だと考えます。今回の講義でも、基本的な知識はありましたが、詳細な内容や講義内容から少し外れた質問に対処するためには、自身も再び学習する必要があると感じました。

私は今回、初めて TA の業務に携わり、受講生を助ける側の立場を経験するとともに、私自身も基礎知識の再学習や新たな知識を学ぶ機会を得ることができ、貴重な経験ができました。これらの経験は、私にとっても、今後の社会生活で役に立つと思います。